

<p>子どもの姿</p>	<p>◆どのような子どもの姿があったのか？この活動を考えるきっかけとなった子どもの姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段から植物や生き物と関わるという経験の土台ができています。 ・先日の森の教室（小峰公園）ではミミズを捕まえたり観察することに関心を持っていた。 ・前回の探究活動でミミズの世界を自分なりに絵で表現した。その中では自分なりにミミズの世界を想像して描いたり、グループの友達とも対話をしながら更にイメージを膨らませていく姿が見られた。 ・自分が描いた絵を友達に説明したり、友達の絵を見て良いところを見つける等、お互いに認め合う姿が見られた。 ・前回の活動をきっかけにミミズの世界に興味を持ち、廃材でミミズの世界を表現するなど遊びが広がっている。
<p>問い</p>	<p>◆思考のきっかけとなる子どもへの問い</p> <p>「ミミズが住んでいる世界はどんなところだろう？」</p> <p>「友達はどんな世界を想像しているかな？」</p>
<p>活動をデザインする</p>	<p>◆活動のプロセス</p> <p>DAY① 友達と一緒にミミズの世界を描こう</p> <p>DAY② 友達と一緒にミミズの世界を描こう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のイメージや考えを友達に伝える。友達のイメージや考えを聞いて想像を膨らませる。 ・友達とイメージを共有しながら、土の中やミミズの世界と一緒に表現する。 ・それぞれのグループが描いた作品を見て、イメージや考えを共有する。 <p>◆保育者の思い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分なりのイメージや考えを持ち、友達に伝えられるようになる。 ・友達の表現を肯定的に受け止め、共有することを楽しむ。 ・友達のイメージや考えを聞くことで更に思考を深めようとする。 ・目に見えない世界を友達と一緒に表現することの楽しさを知る。 <p>◆保育者のアクション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の探究活動を振り返り、今度は友達と一緒にミミズの世界を表現することを提案する。 ・話し合いの時間を設け、問いに対してのお互いのイメージを共有する時間を設ける。 ・迷ったり悩んでいるグループにはヒントやきっかけを伝え、楽しみながら取り組めるようにする。 <p>◆子どものアクションの予想</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のイメージを友達に伝えられる子と、うまく伝えられない子がいる。 ・友達のイメージを肯定しながらも、いざどうすればよいのか迷うグループがある。 ・素材選びや色選びで意見が食い違うグループがある。 ・友達と一緒にということで安心して活動に参加する子もいる。
<p>環境をデザインする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆どのような場所で行うか？ <ul style="list-style-type: none"> ・保育室（落ち着いて集中できる環境を用意するため、対象児のみで保育室を使う。） ・机4台 ※4歳児と5歳児が混ざった4つのグループを作る。 ・活動時間は片付けや振り返りを含めて1時間30分程度を設定。 ◆どのような素材、道具を使うのか？ <p>DAY① ロール紙（白、クリーム、水色、若草色の4色）、絵の具、パレット、筆、バケツ、雑巾</p> <p>DAY② OHP フィルム、サインペン、マジックペン、ビニールシート</p> ◆どんなことに配慮するのか？ <ul style="list-style-type: none"> ・友達とイメージを共有して描くことに集中できるよう、素材や道具はシンプルに用意する。 ・友達とイメージを共有することが難しいと予想されるので、保育者が適宜助言していく。 ・自由な発想が得意な子の意見を聞いてみるなどして、イメージや想像のきっかけを作りやすくする。 ・イメージしやすいようにヒントは伝えるが、想像力を阻めてしまわないよう必要以上に助言はしない。 ・気付いたことに対する共感や違いについての子どもの見解を肯定的に受け止めていく。 ・振り返りの中ではそれぞれのグループの良さを認め合えるよう関わっていく。
<p>小グループ構成</p>	<p>4歳児5名、5歳児6名、計11名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ①3名 ・グループ②4名 ・グループ③4名



探究活動「ミミズ・土の世界って どんなところ？」



DAY①「友達と土の世界を描いてみよう」

子ども達の姿

- 前回の探究活動ではミミズや土の世界をイメージ豊かに絵で表現することができた。
- 保育者とだけでなく、周囲の友達同士でも対話を楽しみながら更にイメージを膨らませていく姿が見られた。
- 自分の描いた絵を友達に説明したり、友達の絵を見て良い所を見つける等、お互いに認め合う姿が見られた。
- 前回の探究活動をきっかけにミミズの世界に興味を持ち、廃材でミミズの世界を表現する等、遊びが広がっている。



環境のデザイン

- 水彩絵の具（赤、青、黄、白）
- 筆（大、中）×人数分
- パレット、バケツ、雑巾×グループに2つ
- 模造紙4色（白、クリーム、水色、若草色）
- 保育室、床で活動
- 活動時間90分



対象児 4歳児4名、5歳児6名 計10名

Aグループ 4名

Bグループ 3名

Cグループ 3名



問い「土の中ってどんなところ？」

保育者 「ミミズが住んでいる土の中って、大きさはどれくらい？」

子ども 「大きい！」 「横に広い！」

保育者 「あったかいかな？それとも寒い？」

子ども 「寒い」 「太陽が当たってるからあったかいんじゃない？」

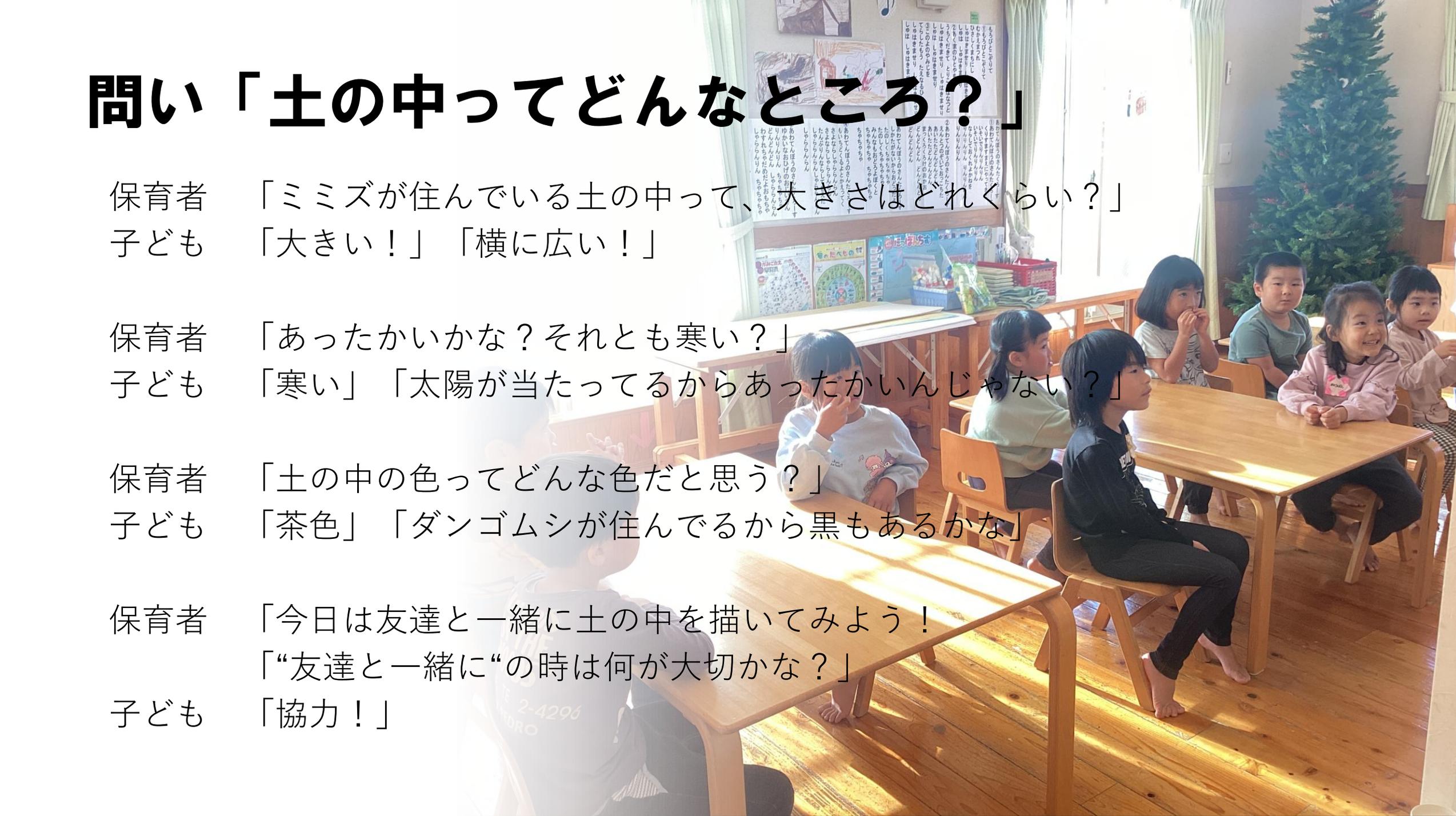
保育者 「土の中の色ってどんな色だと思う？」

子ども 「茶色」 「ダンゴムシが住んでるから黒もあるかな」

保育者 「今日は友達と一緒に土の中を描いてみよう！」

子ども 「“友達と一緒に“の時は何が大切かな？」

子ども 「協力！」



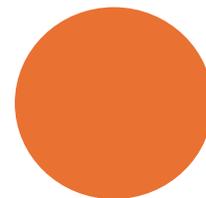
A グループ

「紙の色は何にする？」

「水色！」

「白がいい！」

「じゃあ、じゃんけんで決めようよ！」



じゃんけんで紙の色は水色に決定。

じゃんけんで負けた男児は少々納得がいかない様子だったが、
女児3名のペースに付いていく。
土の色は茶色と決めて色作りに。





色作り

「はじめに緑を作ってから赤を混ぜるんだよ！」



「これやだ！この茶色じゃない！」
「そうかな？これ茶色っぽいよ」

男児は茶色の色に納得がいかない様子。

「トンネルみたいにして描こうよ」
「いいよ～」



女兒3人が描き始めても、男児は色作りに夢中。



保育者 「〇〇君は描かないの？
みんなはどう思う？」

「じゃあ、手伝ってあげるよ！」



男児のパレットに集まって色作りをする4人。

「赤をちょっとずつ付けるんだよ」

「トンネル描いた」

「土の色も塗ろうよ」

「いいよ」

「小さい筆だと塗りにくい」

「大きい筆は塗りやすい」

「間違えちゃった」

「動物みたいじゃん」

「消せる？」(雑巾でこする)

「水色で塗っちゃおう」

入り口から描き、トンネルを作って
色々な部屋に繋げる。
土の色は隅々まで丁寧に塗っていた。



Bグループ

色作り

「赤茶色っぽい色にしない？」

「あったかそうな土にしたい」

「赤茶色っぽくなった？」

「もうちょっと赤入れて！」

「でも土の中って暗いじゃん？」

「そうそう、そんな感じ！」





「トンネルみたいにする？」

女兒の提案に応じる2人。

間違えてほしくないのか、
女兒は2人の手を持って描く。





「土の根っこも描いたらいいんじゃない？」

「根っこ描いてもいい？」

「いいよ！」

「僕達が土描くから、〇〇ちゃん根っこよろしくね！」



「ここは何の部屋にする？」

「ここはお風呂」

「じゃあここはトイレ」

「違うよ、そこは狭い」

それぞれ何の部屋か、
対話をしながら確認していた。



Cグループ

色作り

紙の色はじゃんけんで白に決定。

「濃い茶色を作ろう」

「小峰の土は濃い茶色だったから」

茶色を作り始めるが、なかなか茶色にならない。

「これ茶色かな？」 「緑っぽくない？」





「上の白い部分は残しとく」
「雪が降るところだから」

「土の入り口作った」
「ここから入る」

「ベッドを描くんだよ」

友達とイメージを重ねながら描く。



「出入口が分かるように
茶色を少し変えた」

「（ミミズが）5人家族だから
ベッドを長くした」



「土をいっぱい食べるから
土をいっぱい塗った」

色作りに時間がかかったが、何とか完成！



振り返り(Aグループ)

「トンネルを描くのを頑張った」

「テレビの部屋が可愛い」

「土がいっぱいあっていい」



振り返り(Bグループ)

「土を塗るところを頑張った」

「道と部屋を作った」

「木の根っこを描いた」

「根っこのところがすごい上手」

「キッチンが大きくてかっこいい」

「子ども部屋が2つあってすごい」



振り返り(Cグループ)

「土を塗るの頑張った」

「雪は後で描く」

「色作るのが難しかった」

「ベッドのところがすごい」

「色が分かれているところが
すごくいい」

「ベッドが大きくてすごい」

保育者の振り返り

- 机の上で描くことを計画していたが、紙が大きくパレットやバケツが置きにくかった。急遽床で活動することにしたが、床で行ったことで伸び伸びと描けていた。
- 5歳児がそれぞれのグループで話し合いをリードしていた。4歳児は5歳児の話をよく聞き、協力しようとする姿勢が見られた。
- 土の色を紙全体に塗りつぶすかと思ったが、トンネルや部屋を描いていた。
- 3、4人という少人数で行うことで対話がしやすく、イメージも共有しやすかった。
- どのグループも壁にぶつかりながらも最後まで描き上げた。達成感があったようで、仕上がりをととても喜んでいた。
- このように友達と最後までやり抜くという経験は貴重だと感じた。